国指定名勝 三溪園
記者発表資料

令和５年９月５日
公益財団法人三溪園保勝会

三溪園完成祝いの茶会から 100 年。記念の茶会を開催。

2023 年 10 月 28 日（土）　　原三溪ゆかりの名品の茶道具も。

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、2023 年 10 月 28 日（土）に「三溪園での大師会開催 100 周年記念茶会」を開催します。

園の創設者・原三溪は、生糸の生産や輸出事業の実業家としてのほか、日本や東洋美術のコレクター、新進芸術家のパトロン、そして近代三茶人の一人としても知られています。晩年は茶道に親しみ、招待客の心に遺る数々の名茶会を開きました。その三溪が催した茶会の中でも最大規模を誇ったものが、大正 12（1923）年に行われた「大師会茶会」です。この茶会は三溪園全園完成の披露を兼ねたもので、今年で 100 年の節目を迎えます。その記念企画として開催する今回の茶会では、織田信長の弟・有楽（うらく）の作と伝えられる茶室・春草廬、三溪が精魂を傾けて移築した“東の桂離宮”と評される臨春閣を主会場に、三溪ゆかりの茶道具も一部に用いて行います。

近代の数寄者たちが理想とした、自由で型にとらわれない風雅な茶の世界をお楽しみいただけます。

大正 12（1923）年大師会茶会当日の原三溪

※「大師会茶会」とは

三井物産を創始した実業家で、“千利休以来の大茶人”といわれた三溪の茶友・益田鈍翁（どんおう）が東京品川御殿山の自邸に数寄者を集めて催したことに始まる茶会。大正12（1923）年の第23回をもって財団法人による運営となり、この体制のもとで鈍翁邸から会場を移し初めて開催された地が三溪園でした。この時、園内には18か所もの茶席や美術品展観室、食堂・茶屋などが設けられ、4月21、22日の2日間で600名の参加者を数えました。

令和５年９月５日
公益財団法人三溪園保勝会

■記念茶会の概要

会 期 ｜ 2023年10月28日（土）

時 間 ｜ ①9:30～ ②10:30～ ③11:30～ ④12:30～ ⑤13:30～ ⑥14:30～

定 員｜ 90名（15名×6回）

料 金 ｜ 35,000 円（税込み　濃茶・薄茶２席分の席入料、１名様分の点心・三溪園入園料が含まれます。）

※年齢等による免除・割引はありません。

※個人のご都合による不参加の場合の返金はいたしません。

会 場 ｜

重要文化財 春草廬 ―濃茶席
織田有楽の作と伝えられる江戸時代初期の茶室で、小間は大正 11（1922）年に京都・宇治の三室戸寺金蔵院から移築、三溪により広間が付設された。かつては臨春閣の裏手に白雲邸と接続して建てられていた。

重要文化財 臨春閣 ―薄茶席
江戸時代初期に紀州徳川家の別荘・巌出御殿の遺構と伝えられ、京都の桂離宮・修学院離宮とともに、現存する江戸時代の数寄屋の白眉といわれる名建築。屋内の意匠とともに内部から望む庭園の眺めもみどころ。

横浜市指定有形文化財 白雲邸 ―点心席
大正９(1920) 年に原三溪が夫人と暮らすための隠居所として建てたもので、三溪自らの構想により同郷の大工・山田源市に造らせた三溪の好みを伝える数寄屋建築。かつては臨春閣と渡り廊下で連結されていた。

主催等 ｜ 主催：公益財団法人三溪園保勝会

共催：東京美術青年会

後援：東京美術商協同組合

お申込み ｜ お電話でのお申込みとなります。TEL045-621-0635（三溪園）

※指定口座への代金振り込みが必要となります。詳細はお申込みの際にご案内します。

お申込み受付　2023 年 9 月 12 日（火）10:00～　※完全前売制となります。

◆三溪園について

生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって明治 39（1906）年に一般公開された、広さ約 175,000 ㎡（東京ドーム約 4 個分）に及ぶ日本庭園。園内には、廃仏毀釈の荒廃などから守るために京都や鎌倉などから移築された歴史的建造物 17 棟が点在し、四季折々に表情を変える自然の中に巧みに配置されている。開園時には「遊覧御随意」を掲げ、現在の外苑エリアが 24 時間無料開放されていたが、これは「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されたもの。三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観や下村観山、前田青邨らと深く交流するなど、三溪園は近代日本美術にも貢献した場所といえる。第二次世界大戦では大きな被害を受け、戦後の昭和 28（1953）年に原家から横浜市に譲渡されたことを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至る。園内にある 17 棟の古建築のうち 10 棟は重要文化財、3 棟が横浜市指定有形文化財に指定されているほか、平成 19（2007）年には庭園全域が国の名勝に指定された。

◆原三溪について

原三溪（本名 富太郎）＜慶応 4（1868）年-昭和 14（1939）年＞
岐阜県厚見郡佐波村（現在の岐阜県岐阜市柳津町）で代々庄屋をつとめた青木家の長男として生まれた。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、明治 18（1885）年東京専門学校（現在の早稲田大学）に入学、政治・法律を修めた。明治 21（1888）年ごろ跡見学校の助教師となり、明治 24（1891）年、横浜の生糸売込商・原善三郎の孫娘・ 屋寿と結婚、原家に入籍した。善三郎の没後原家の家業を受け継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収めた。本邸を本牧三之谷（現・三溪園）へ移すと古建築の移築を開始、明治 39（1906）年に三溪園を市民に無料で開放した。大正 12（1923）年の関東大震災後には、荒廃した横浜の復興に力を注いだ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は園内の三溪記念館に収蔵されている。

施設概要

施設名	三溪園（さんけいえん）
運 営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824　神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式 HP	www.sankeien.or.jp
Instagram	www.instagram.com/sankeien_garden
Twitter	twitter.com/HSankeien
入園料	2023 年 9 月 30 日まで 大人 700 円／小中学生 200 円 横浜市内在住の 65 歳以上 200 円（公的証明書の提示が必要） 2023 年 10 月 1 日から 大人 900 円／小中学生 200 円 横浜市内在住の 65 歳以上 700 円（公的証明書の提示が必要）
開園時間	9：00～17：00（最終入園 16：30）
アクセス	JR 根岸線根岸駅から市営バスで 10 分「本牧」下車、徒歩 10 分 横浜駅東口から市営バスで 40 分「三溪園入口」下車、徒歩 5 分

本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当　岩本・加藤
TEL：045-621-0635 / FAX：045-621-6343
MAIL：websupport@sankeien.or.jp